

2023年9月20日

報道関係各位

資生堂との共同研究で、和漢成分 による心身を介した肌改善効果を確認

両社の100年におよぶ研究の歴史・資産を融合し創出した、
健康美の革新的な新知見

株式会社ツムラ（本社：東京都、代表取締役社長 CEO：加藤照和、以下当社）は、株式会社資生堂（本社：東京都、代表取締役会長 CEO：魚谷雅彦、以下資生堂）との共同研究により、東洋思想の五臓^{※1}からヒントを得て、肌不調を引き起こす心身の根本原因を5つ想定し、それらを改善することが期待できる和漢成分の組み合わせを開発いたしました。

そして、この和漢成分を個々人の心身の状態に合わせて摂取すると、心身の状態の改善と共に肌状態の改善効果を示すことや、美容効果が確認されている資生堂選定の果実由来成分（リンゴンベリー果汁とアムラ果実）とを組み合わせることで、さらなる肌改善効果が得られることを確認いたしました。

資生堂との戦略提携契約締結により、お客様に東洋思想と先進皮膚美容科学を融合させた新たな価値をお届けしてまいります。本研究の一部は、2023年9月に開催された日本生薬学会第69回年会にて、資生堂と共同で発表いたしました。

※1 五臓とは肝・心・脾・肺・腎のことですが、西洋医学における臓器の名称とは異なり心身の健やかさを維持・促進する機能を指します。また、それぞれに異なる役割があり、五臓は互いに支え合い、バランスを取っているという考え方をします。五臓の臓器は高めあう関係の「相生」、抑制しあう関係の「相克」というバランスの中で機能しています。

自然と健康を科学する

お問い合わせ先

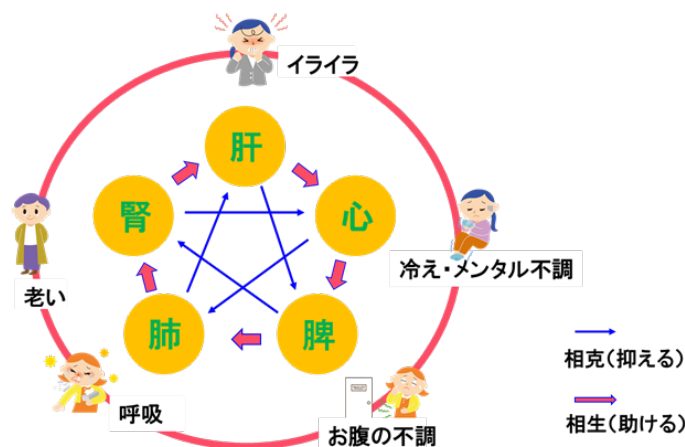
株式会社ツムラ コーポレート・コミュニケーション室 広報グループ 担当：瀬戸、山田
〒107-8521 東京都港区赤坂 2-17-11 TEL.03-6361-7100 shuzai@mail.tsumura.co.jp

1. 研究背景

近年の健康志向から、「健康」と「美しさ」の関わりはより密接になってきており、健康的な美しさを手に入れることを目指し、身体の内側からケアをするニーズが高まっています。和漢成分が心身の不調を整えるために有用であることは知られていますが、それによる肌への影響や作用メカニズムについては詳しく分かっていませんでした。当社は肌と心身との関わりに着目し、創業 150 年の歴史を持ち美容領域のトップエキスパートである資生堂と共同研究を行いました。互いに 100 年以上に及ぶ研究の歴史・資産を生かし、当社が持つ心身と生薬のつながりに関する知見・技術と、資生堂の持つ肌と心身の関わりに関する知見・技術とを融合し研究を進めました。

2. 東洋思想の五臓に着目し、和漢成分を開発

東洋思想には五臓という、生体の生命・精神活動の中心をなす機能単位の考え方があります。この考え方に着目し、当社と資生堂は個々人の体質によって異なるであろう、肌不調を引き起こす心身の根本原因を 5 つ想定いたしました。また、当社が持つ生薬に関する東洋医学的知見及び蓄積してきた西洋医学的な作用メカニズムに関する知見と、資生堂が持つ体内要素による皮膚への影響に関する研究知見との融合により、これらの原因を改善することが期待できる成分として、原因ごとに 5 つの和漢成分の組み合わせを開発いたしました。例えば、肌不調の根本原因の 1 つとして想定した冷え・心の不調に対しては、これまで蓄積してきたデータ等を精査し、「乾姜、大棗」を中心とした和漢成分の組み合わせにたどり着きました。



Copyright(C)2023 TSUMURA & CO. All Rights Reserved.

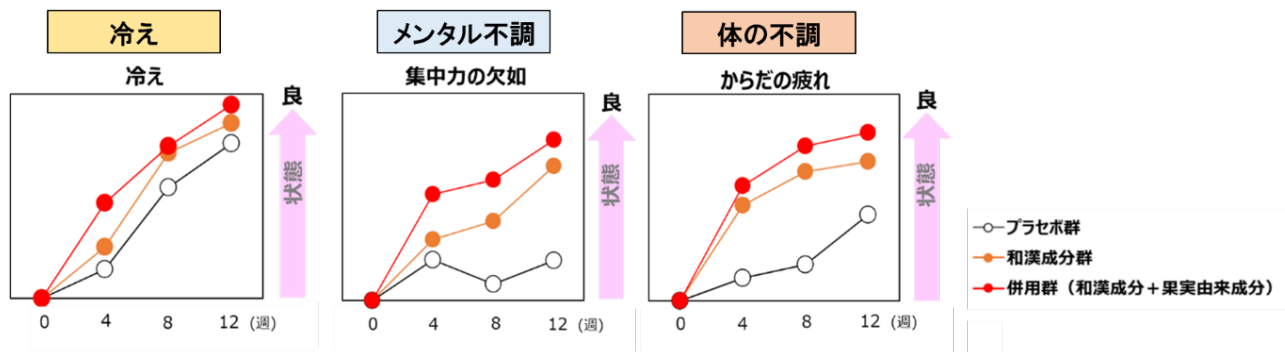
「心身の関係性を示す東洋医学の一つの考え方」

3. 和漢成分および果実由来成分との併用による心身を介した肌改善効果の確認

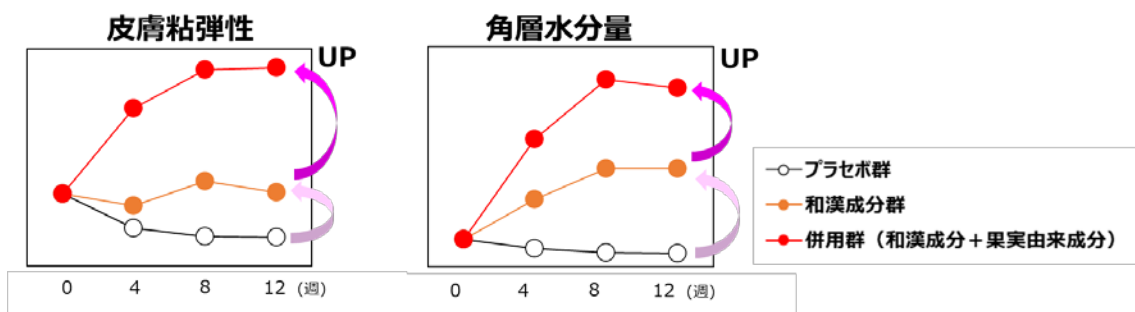
心身を介して肌状態を改善すると期待し考案した和漢成分の効果について、体調と肌への影響をヒトで確認いたしました^{※2}。プラセボ群、上記和漢成分群に加え、資生堂がコラーゲン産生促進効果を確認している果実由来成分（リンゴンベリーとアマラ果実）の組み合わせと併用した群の3グループで比較を行ったところ、体調の評価において、和漢成分群と併用群は、プラセボ群に対して、血のめぐりやメンタル不調とも関連する「冷え」「集中力の欠如」「からだの疲れ」の感じ方が改善することが確認されました。また肌状態の評価においては、和漢成分群はプラセボ群に対して、皮膚粘弾性や角層水分量などの肌状態が改善しており、和漢成分が肌改善効果を有することが明らかになりました。

さらに、併用群では和漢成分群よりも高い改善効果を示したことから、果実由来成分を組み合わせることで改善効果がさらに高まることが分かりました。

※2 血のめぐりやメンタル面などの体調と肌の不調を感じている35～50歳の日本人女性を対象として、プラセボ群30名、和漢成分群30名、併用群（和漢成分+果実由来成分）33名で実施。体調はアンケート、肌（頬）は機器測定により評価。



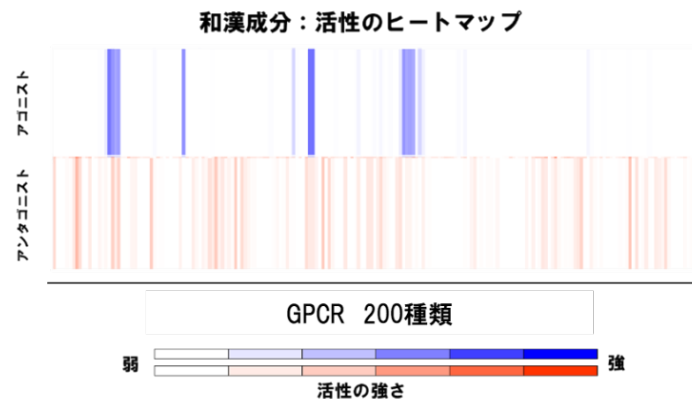
和漢成分と果実由来成分の併用摂取による体調(血のめぐり・メンタル不調)の改善



和漢成分と果実由来成分の併用摂取による肌改善効果(頬の皮膚粘弾性・角層水分量)

4. GPCR 活性評価により和漢素材の働きを解明

Gタンパク質共役型受容体(GPCR) はペプチド、タンパク質からイオン、アミン、脂質まで、さまざまな物質を認識する受容体で、ヒトの生理機能に不可欠であることが明らかになっています。今回、選定した和漢成分の心身、肌への働きを推定するため、計 200 種もの GPCR に対する活性を網羅的に解析いたしました。その結果、多くの GPCR に活性を有することが明らかとなり（下図）、さらに和漢成分が活性を示した GPCR の機能を調べると、その中には血管や中枢神経の制御に関連するものであることが分かりました。これにより、今回確認された和漢成分の肌への効果が、血流や神経への働きによる可能性があることが示されました。



GPCR 活性のヒートマップ解析の事例

5. 今後の展望

当社はこのたびの資生堂との協業において、東洋思想における五臓の考え方をベースに、今までの漢方薬の基礎、臨床研究で培った知見を生かし、当社が保有するデータベース^{※3}を活用することで漢方薬の生薬の組み合わせとは異なる和漢成分の研究を行い、エビデンスベースの新たな和漢成分の組み合わせを開発いたしました。今後も当社の和漢成分の知見と資生堂の美容成分の知見とを組み合わせることにより、東洋思想と先進皮膚美容科学を融合させた新たな価値を共に創出し、お客様の「健康美」の実現を目指してまいります。

※3 「K-Search」という自社独自のデータベースを有しており、古典から最新の研究まで約 13 万件の漢方や生薬に関する文献・学会情報が検索可能です。

以上